

GSU011-05

会場:展示ホール7別室2

時間: 5月23日14:36-14:49

地震に恵みはあるか

Do the earthquakes bring us benefit ?

中島 健^{1*}

Takeshi NAKAJIMA^{1*}

¹中島 健

¹Takeshi NAKAJIMA

理科教育の場において地震や火山・台風などの自然現象を扱う時、人間社会が被ってきた災害をとりあげることが多い。しかしその一面だけを強調するのではなく、それらの自然現象が人間社会にもたらす恩恵についても触れるべきであるとの考え方が、近年提案されるようになってきた。高校地学の火山分野では、災害とともに温泉、地熱、地形、景観などに関連する恩恵も重要であり、火山活動による災厄と恩恵の両面を享受しつつ人間社会が営まれてきたことを生徒は学ぶことになっている。

一方、地震分野の現状はどうであろうか。地震活動によって引き起こされる災害については、多くの教科書が写真入りで掲載している。しかし地震に関連する恩恵の側面について述べているものは、ほとんど皆無である。そこで筆者は琵琶湖の成因と地震活動の関係を題材にして地震の恩恵を含めた教材プログラムを開発し、中高生や一般市民向けに実践したが、その評価は二分されている。「地震の恵みを受けて生きていることがよくわかる」という評価がある反面、「震災で多くの命が失われているのに、恵みがあるなどというのは論外だ」との意見もある。

しかし、災害の脅威のみを強調しても地震を正しく恐れることにはつながらないであろう。自然現象のもたらす災厄と恩恵という二面性について、どのような防災教育内容に構成し、展開していけばいいのかを、アンケート結果をもとに考察する。

キーワード:防災教育,自然災害,二面性,災厄と恩恵

Keywords: disaster prevention education, natural disaster, double-facedness, troublesome and thankful